

## 単元名

## ばめんごとに 読もう「お手紙」 紙芝居を成功させよう

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 感性

## 1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。  
ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。  
カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

## (1) 単元観

本単元では、文学的文章読解の基本として、物語がいくつかの場面からできていることを知り、場面ごとに人物の様子や気持ちを押さえながら読む力を付けることをねらいとする。紙芝居の発表をするという言語活動を行うことを通して場面ごとの登場人物の様子の変化に着目させ、読み取った登場人物の気持ちが表れるように音読させていく。

本教材の主題は、「友情」である。自分の気持ちをまっすぐに表現する二年生の児童にとって、がまくんとかえるくんの素直な悲しみや喜びは共感できると考えられる。

本教材「お手紙」は、かえるくんとがまくんの二人の登場人物を中心に、①お手紙を待つ二人②お手紙を書くかえるくん③お手紙を待つかえるくんと待つのをやめたがまくん④幸せな気持ちでお手紙を待つ二人⑤お手紙が来て喜ぶがまくんの5つの場面で構成されている作品である。かえるくんとがまくんの会話を中心に挿絵を手がかりに場面をとらえさせ、場面ごとに登場人物の行動や会話に着目させ、そのときの気持ちを考えながら読む活動を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを豊かに想像する力を育成したい。そこで、本単元の学習では「紙芝居の発表をしよう」という活動を設定し、挿絵を活用したり動作化させたりして、想像を広げて物語を読み進めたい。1年生や5年生などに紙芝居を発表するという目的意識を持つことで、場面ごとに分けること、音読することに意欲的に取り組むことができると考える。

## (2) 児童観

## 国語科の実態

本学級の児童は、4月に「風のゆうびんやさん」の学習を通して、言葉のまとまりに気を付けて声に出して読む学習を行った。どの児童も人物の様子や会話に合わせて音読を工夫して読むことができた。しかし、人物の様子を読み取りに止まり、場面ごとに教材を読み進めることはあまりできていない。

## 資質・能力に関する実態

意欲に関するアンケートを実施したところ、国語が好きな児童は6人で、書くことに抵抗感があり、国語を好きになれない児童が多い。物語を読むことが好きな児童は、16人で、すらすら読めるようになることに喜びを感じている児童や、想像を広げる楽しさを感じている児童が多い。また、2年生の推薦指定図書を進んで読むことができる児童とそうでない児童と、読書態度に差が大きい。

以上のことから、本学級の児童は、想像を広げて読むことは全体的に得意であるが、場面ごとに読むことや読書態度の差が大きいことが課題として挙げられる。

## (3) 指導観

単元の導入では、教材文を読み、初発の感想を書かせるとともに、紙芝居を作るという意欲を高める。紙芝居の発表をするという学習計画を立て学習を進めることで、物語を場面に分けてとらえる力と、人物の気持ちを読み取る力を育成させたい。「紙芝居を成功させるためにどうしたらよいだろう。」と投げかけることで、場面に気を付けて読むことや人物の気持ちを想像しながら読むことなど、教材文を学習する目的を自覚させる。

教材文を読み取る活動では、がまくんが幸せになった場面や、かえるくんが不幸せな理由と幸せな理由などについて話し合うことで、場面を意識させたり、叙述を根拠に自分の考えをもたせたりする。教材をもとに話し合う活動を繰り返すことにより、内容や大まかな展開を捉え、情報を多角的に精査し、構造化する力の素地を育てるとともに、読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして読書の楽しさに気付かせ、読書態度を育てていきたい。

## (4) 単元でめざす児童の姿

- 人物の行動や会話に関心を持ち、楽しんで物語を読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて物語を音読することができる。(読むこと)
- ◎ 場面について知り、登場人物の行動を中心に出来事の順序に沿って、想像を広げながら読むことができる。(読むこと)

### 3 領域「読解」の系統

一年	10月【サラダげんき】 人物と人物の行動に気をつけて読む。	二年	6月【お手紙】 人物がしたこと、順序やそのときの様子に気をつけて読む。	三年	9月【名前を見てちょうだい】 場面ごとに人物の行動や気持ちを読み取る。	三年	6月【ゆうずけ村の小さな旅館】 起きた出来事を読み取り、物語のしかけを見つける。	三年	10月【サーカスのライオン】 物語の中心となる人物の気持ちの変化を考えながら読む。
----	----------------------------------	----	--	----	--	----	---	----	--

### 4 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	○ 人物の行動や会話に関心を持ち、アーノルド・ローベルの作品を楽しんで読み、紙芝居を発表しようとしている。	○ 語のまとまりや言葉の響きなどに気付けて物語を音読している。 ◎ 場面について知り、登場人物の行動を中心に出来事の順序に沿って、想像を広げながら読んでいる。	○ 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くことができる。

### 5 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元において、紙芝居を作るという目的を設定し、教材文について話し合い、場面ごとに想像を広げて読むことを通して、叙述を手がかりに大まかな展開を捉えることのできる思考力・表現力（スキル）や経験のないことを体験する読書の楽しさ（価値観・倫理観）を育成したりすることができると思える。

### 6 指導計画（全11時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>全文を読み、紙芝居をするという見通しをもたせる。(1)</p>	<p>教師による紙芝居を聞き、アーノルド・ローベルの作品の紙芝居を作って発表しようとしている。 【関・意・態】(行動観察)</p>	
<b>紙芝居を作るために、どんなことをしたらよいだらう。</b>			
二	<p><b>情報の収集</b>      <b>整理・分析</b></p> <p>挿絵を並び替え、5つの場面を確かめる。誰の会話文であるかを確かめながら、全文を読む。(2)</p>	<p>挿絵を並び替え、場面分けをしている。 【関・意・態】(ワークシート)</p> <p>音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くことができる。 【言語】(行動観察)</p>	<p>叙述を手がかりに内容や大まかな展開を捉えている。 【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>読書を通して、知らないことを知ったり、経験のないことを体験したりして、読書の楽しさを感じている。 【感性】(ノート)</p>
	<p>第一場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>がまくんだけでなく、かえるくんまでが悲しい理由について叙述をもとに読み取っている。 【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第二場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>急いでいるかえるくんがかたつむりくんにお手紙を渡した理由について叙述をもとに読み取っている。 【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第三場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p>	<p>諦めているがまくんと手紙を待つかえるくんの様子や気持ちを想像しながら読んでいる。 【読む】(ノート・発言)</p>	
	<p>第四・五場面の人物の気持ちや行動について話し合い、読み取る。(1)</p> <p style="text-align: right;">(本時7/11)</p>	<p>がまくんとかえるくんが、何に対して幸せを感じているか教材文をもとに読み取っている。 【読む】(ノート、発言)</p>	
三	<p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>実行</b>      <b>ふりかえり</b></p> <p>紙芝居を作成し、練習をする(3)</p> <p>紙芝居の発表をし、振り返りを行う。(1)</p>	<p>場面ごとの登場人物の行動や会話から想像したことを紙芝居に生かして、声の大小や速さ、間の取り方や声の質に気付けて音読している。 【読む】(行動観察)</p>	

## 7 本時の展開 (7/11)

### (1) 本時の目標

第四・五場面を音読し、人物の気持ちについて話し合うことを通して、がまくんとかえるくんがそれぞれ何に幸せを感じているか想像したことを表現することができる。

### (2) 観点別評価規準

がまくんとかえるくんが、何に対して幸せを感じているか叙述をもとに想像したことを音読やノートに表現している。【読むこと】

### (3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時のめあてを確認し、学習場面を音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに学習してきた場面を音読し、場面ごとの人物の気持ちを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>がまくんは、なぜ幸せなのだろう。 かえるくんは、なぜ幸せなのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「二人とも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」と第一場面の「二人ともかなしい気ぶんで、げんかんの前にこしを下ろしていました。」を比較し、幸せになった理由について考えさせる。</li> </ul>	
<p>3 がまくんとかえるくんが幸せになった理由について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がまくんとかえるくんが幸せになった理由について一人で考えさせ、ノートに書かせる。</li> <li>◆ がまくんとかえるくんがこれまでにしてきた行動に注目させ、幸せになった理由について考えをもたせる。</li> <li>がまくんが幸せになった理由を発表させた後に、かえるくんが幸せになった理由を発表させる。</li> <li>【がまくんが幸せになった理由】 <ul style="list-style-type: none"> <li>お手紙をもらったから。</li> <li>お手紙を読んだから。</li> </ul> </li> <li>【かえるくんが幸せになった理由】 <ul style="list-style-type: none"> <li>がまくんに「とてもいいお手紙だ」と言われたから。</li> <li>がまくんがお手紙をもらえたから。</li> <li>がまくんが幸せだから。</li> <li>がまくんに気持ちが伝わったから。</li> </ul> </li> <li>◆ 自分自身が幸せになった経験を問いながら、がまくんとかえるくんの気持ちの想像をふくらませる。</li> <li>かえるくんが幸せな複数の理由の中から、一番納得できたものを一つ選ばせる。</li> </ul>	
<p>4 音読をする。</p> <p>5 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第四・五場面で読み取ったことをもとに、音読をどのように工夫するか確認して音読させ、評価する。</li> <li>第一場面や第三場面と比較させることで、場面の違いをとらえさせる。</li> <li>発表した児童の音読を評価し、全員で音読を繰り返させることにより、想像したことを全員で共有する。</li> <li>本時で学んだことが紙芝居作りにどのように役立たせるか発表させ、本時の学びを自覚させるとともに、紙芝居作りへの意欲を高める。</li> </ul>	<p>○ がまくんとかえるくんが、何に対して幸せを感じているか叙述をもとに想像したことを音読やノートに表現している。</p> <p style="text-align: right;">【読む】 (ノート、発言)</p>